

CHAO LETTER

ジャパ・ベトナム報告 No.8

チャレンジ 2024! 困難を乗り越えて!

発行者：ジャパ・ベトナム事務局

発行日：2023年11月20日

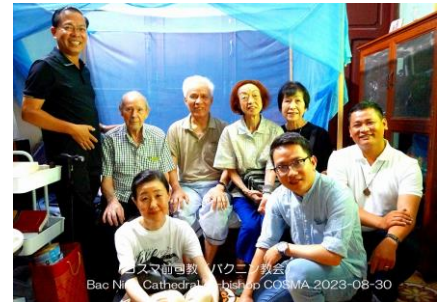
今年又あらたな支援先が出来て

安藤 勇

ジャバ・ベトナムの地味な活動の中で一番大切な活動は、年一回ベトナムへ出向いて、現地で私たちが支援金を出しているプロジェクトの関係者に出会い、直接に彼らの活動に私たちの関心を示すことです。今年のベトナムツアーのメンバーは、現地からの一人のベトナム人を含めて、7人でした。そして、2週間にわたって全国に散らばる9ヶ所のプログラムを訪問してきました。

この Chao Letter にツアーの若いメンバーから詳しいレポートがありますので、読んでみたら、2週間にわたって、私たちが何をしてきたのかとよくわかります。毎年行うことですが、今年も各プロジェクトと関係している多くの人たちに会って、その担当者から報告を受け、支援金を渡します。その時、その支援金は私たち、ツアーメンバー、からのお金ではないことを伝えます。それは、日本にいるジャバ・ベトナム会員からの送られるお金ですと。

ジャバ・ベトナムが関わっているプロジェクトは農村地方にあり、少数民族、HIV 患者家庭の子ども、貧しい環境に住んでいる子どもやその家族が中心になっています。ジャバ・ベトナムが公にうたっているように、「私たちの支援の原則」は、リーダーが信頼できるグループ、より貧しく弱い立場の人の役に立つ、私たちの力量を超えない小規模支援。そして、支援分野は、教育、人の生活、医療です。私たちの約束を果たしていると自信があります。最後に、今年の全支援金額は2百万円でした。



実り多かった今年のツアー

小野 浩美

五井 邦宏

コロナで中断後再開し、2年目となった今年のツアーだが新しいことが沢山あった。コロナの影響は小さくなり、直接会うことのできた支援先のベトナム人グループ（訪問先）が、北部/1グループ（3ヶ所）、南部/8グループ（9ヶ所）と多くのサイトを訪ねることができた。今年からは、ホーチミン近郊に新に2グループのサイトの訪問が加わった。ツアーメンバーとして、協力者の Br.バオさんが全行程参加したこと、日本からユングさんが参加、通訳としても協力いただき、またベトナム人知人ホングさんが2人の娘さんと、HCM 支部からサングさんが参加したこと、初めての参加者も交え、楽しく賑やかなツアーになった。ロンディエンの子どもたち、新支援先タンビエンの子どもたちが、私たちに積極的に関わってきたことが嬉しい出来事だった。

訪問中、JAPA を長年に渡ってフォローされてこられた3人のベトナム人のリーダーの方たち、コズマ前司教の病氣お見舞い（バクニン）、バンさんとのお話を（ホーチミン市）、また今年亡くなられたナム神父の墓参（カントー）ができた。また、カマウの教会では、ミサに集まった大勢のベトナム人に、DAT 神父と共に安藤神父が直接感謝の祈りをされた。いつものように支援サイトの多くの方々への丁寧な受け入れとともに、グループ全員ほぼ予定通りにミッションを終えることができたことに感謝したい。





ロンディエン 少数民族の子供たちの寮



シスターバスマカルと生徒たち（バリア・フンタウ）

2023年JVツアーに参加して

有吉 和子

昨年初めて体験したJVツアーでは、南部の支援先のみでの訪問でしたが、今回は北部のハノイからメコンデルタ最南端の地カマウまで約11日間の全行程に参加することが出来ました。実際に現地に行き、各支援グループを訪問し支援先の皆さんと対面することで、活動内容とその状況を把握し良い交流が出来ました。ジャパ・ベトナムからの支援金を活かし、現地の教会と市民グループが連携して、ネットワークで活動する事は大変意義深いと感じました。

8月28日に成田を出発して、ハノイの空港に到着し、バクニン省に向かいました。ワゴン車から眺める穏やかで美しい自然の風景の中に昔ながらの家が点在し、旅の疲れを和らげてくれるようでした。翌日、早朝からバクニン省の3つのHIV感染被害者家族のグループを訪問し交流しました。政府からの支援もありますが、生活は困窮しています。感染被害者家族であることで、子供たちが学校で差別を受けることもあるという悲しい現状を聞きました。しかし、あるグループでは、母親たちがラインやネットなどオンラインで連絡を取り合い分かち合っていると聞き、希望を感じました。

8月30日に飛行機でホーチミン市に移動、翌日は教会の1室で5つの支援グループリーダーとの顔合わせと交流会でした。2つのグループが、新しくジャパ・ベトナムの支援を受けることを希望して交流会に参加していました。各グループの皆さんがそれぞれ現実とそのための具体的な活動を分かち合ってくれました。

9月1日からワゴン車で南部の各支援グループを訪問しました。最初に訪れたタイニンでは、カンボジアからベトナムに戻ってきた子供たちを教育し、楽しくベトナム語を教えていました。次に、メコン川流域で生活するカンボジアからの帰還者家族の集落を訪れました。彼らは市民権も得られず、川の流域に木材で高床式の住居を組み立て、困窮した生活を余儀なくされています。そのため、子どもたちも学校教育を受ける事が出来ません。この時期のベトナムはちょうど雨期に入り、この日も午後からひどい風雨で、私たちは車から降りて支援先の家族に会うことは出来ませんでした。大雨の中ずぶぬれになりながら、河口を駆けている子供たちの姿を車の中で眺めるといふ現実が心が痛みました。翌日訪れたロンディエンの支援施設は、自然豊かな山郷にあり、120人の少数民族の子供たちを受け入れ共に生活し、教育していました。多くの作物を自給自足しながら豊かな人間形成に取り組まれている様子に感動しました。次の日の今回新しい支援先となった介護や車の整備などの職業訓練校では支援者が社会に出て自分大切に育む人間性を育てる教育をしていました。

最後の3日間で、最南端の地域を訪れました。カマウでは、ジャパ・ベトナムの支援金で購入した通学用の自転車の贈呈式に立ち会いました。自転車を受け取って嬉しそうに帰って行く子供たちの姿が印象的でした。また、耳や目の不自由な子供たちの学校では、先生方が彼らに優しく寄り添い、指導する姿に教えられる思いでした。行く先々の支援先で、子供たちはキラキラした笑顔で私たちを受け入れ、歓迎してくれました。

今回のツアーを振り返って、子どもたち一人ひとりに寄り添い、人間として大切なあり方を育む支援者に感動しました。私たちは子供たちの未来に責任がある、改めて、そう思いました。これからも支援グループと連携して、希望をもって繋がりたいと思います。



ジャパベトナムツアーに初めて参加させていただいて報告と感想：バクニンにおいて HIV 感染されている家族をサポートしている団体（2023年8月29日）。

団体名「ひまわりの会」は、宗教は関係なくすべての方と分かち合うことを目的として、2008年に発足し、この報告会にこの日参加できなかった子どもたちは、遠方に住んでいることもあるが、人の前で自分の病気のことを恥じていて来ることができない子どもがいるとのことだった。

団体名「明るい将来のために」は、現在120名おり、2005年にできたグループで教会からも政府からもサポートを受けている。学校に行く子どもたちには、先生からも生徒からも差別があったが、以前に比べれば差別は少し減って来た。そして、会員の約90%は配偶者をエイズで失い独り身になった女性たちである。現在、バクニンの病院の中に専門クリニックをつくり、他の団体の人もそのクリニックを使用できるようにしている。エイズの薬は、感染すれば一生飲み続けていかねばならず、薬は保険が適用されているが、薬が足りない時の分は自腹で払うことになり、その保険は適用しない。

グループの会長より、現在若者のエイズ患者が増えている。そして、もし、エイズによって身体の内臓部のどこかが悪くなってくれば、その部位の治療は個人で負担しなければならない。感染していない子どもたちでも、その子どもの親が感染していれば、たとえ大学を卒業しても就職し辛い現状があり、本人が感染者であれば、尚更仕事に就きにくく、心のサポートも必要となる。

バクニンカテドラル内カリタスのジョゼフ神父より、エイズ患者の子どもたちは男の子が多く、国内のネットワークで情報含めて繋がりを大切にしているが、地域によってはネット関連がうまくいっていないのも現状とのことだった。

私も一人娘の母親として、今回娘よりもっと若く、特に幼い子どもたちの感染者と対面して、親御さんの悲痛の叫びもととても痛感した。対面した中には、恐らくまだHIVのことすらわからずにいる幼い子どもたちもおり、いずれ親がHIVであること、また自身の感染を知った時にどれほど辛いことか、そして、すでに自身がHIVであることを知っている子どもたちにとって、どんなに同じ立場や環境の子どもたちがいたとしても、なかなかコミュニケーションを取り辛い環境であれば、尚一層孤独になっていく可能性もあると思う。薬も若い人にとっては、一生飲み続けることは簡単なことではなく、途中で止めてしまう子ども多いと伺った。日本も多い若い人のエイズ感染者の増加、その背景をしっかりと調査して確認し、早急に手を打たねばならないと思った。



ツアーに参加して思うこと：提言 Br. ゲン ビェット バオ

私が観察したこと： ジャパ・ベトナム のプロジェクトに関して皆様の献身と取り組みは刺激的です。弱い立場にある人々に思いやりを持ち、彼らの生活に前向きな変化をもたらしたいと考えています。訪問に意味と喜びを見出し、その経験を他の人と共有します。皆様は素晴らしいユーモアのセンスがあり、訪問中に直面する困難や課題に耐えられる忍耐力を持っています。ベトナム人に会うとき、とても魅力的で気配りがあり、彼らの話やニーズに耳を傾けます。メンバーが訪問すると人々は温かく歓迎し、感謝の気持ちを伝えてくれます。彼らは私たちが提供するもの、つまり支援金だけでなく、JAPA VN が彼らに対して持っている愛と気遣いを大切にしています。人々は ジャパ・ベトナム に感謝しています。特にあなた方の訪問は、彼らが忘れられていないことを示しています。

変える必要があると思うこと： 毎年恒例の ジャパ・ベトナム の訪問の際は、一人の担当者が、ホテルや交通手段の予約を手配する方が便利です。他のメンバーはこれについて心配する必要はなく他のメンバーはこれについて心配する必要はなく、他のことをする時間を作ります。JAPA VN の 資金には限りがあるため、以前と同様にさまざまなプロジェクトへの支援を継続するか、資金を少しずつ分けて北から南までさまざまなプロジェクトに分配するか、少数の特定のグループに焦点を当てて資金を削減するかを選択できます。きっと他のグループは自分たちで運営できるでしょう。Cà Tráng 小教区でのプロジェクトは、ジャパ・ベトナム の支援なしでもなんとかやっていけそうなので、私たちが注意を払う必要は少ないように思えます。代わりに、貧しい学生のより弱い立場にあるグループに焦点を当てたらどうかと考えています。



初めに：ジャパ・ベトナムの目的は、ベトナムに来て、貧しい子供たちや特別な事情を持つ子供たちに奨学金や支援金を与え、彼らが勉強し、自分たちの権利や利益などの意識を高める機会を得られるようにすることであることは誰もが知っている。これは当然なことである。しかし、私にとって、ジャパ・ベトナムがベトナムのために与えてきたことは、単なる奨学金や支援金だけではなく次のことも大切になる。

ジャパ・ベトナムの存在感：ベトナム人は私ですが、ジャパ・ベトナムと一緒に同行するのは初めてなので、驚くのはジャパ・ベトナムがベトナムに33年間も存在していることである。現場に到着すると、何年かぶりに再会し、皆が「喜んで握手」したりした。あるエイズの患者は「皆さん特に安藤神父様が今も無事で健康な姿であるのを見ると、とても幸せです」と語った。さらに、私たちは修道会が運営する少数民族の子供教育センターに到着したところで、シスター達は私たちを温かい握手で出迎え、「何年も経ったのに今も変わらず健康でいられるのは素晴らしいことです」と言った。確かにジャパ・ベトナムとベトナムの諸団体との関係は奨学金や支援金などを超えており、より重要なのは私たちベトナム人に対するジャパの友好的で協力的な存在であるとはっきりと感じている。

ジャパは同伴者として：ジャパ・ベトナムの存在とともにその同伴も非常に重要である。奨学金の授与や受け取りの過程では、支援金の使用状況を報告するが必ず行われる。当時、ある団体の代表者は「他の団体からジャパよりも多額のお金を頂いた時期もあったが、1、2年の後で維持しなくなった」。しかし、ジャパ・ベトナムに感謝するのは、33年間もサポートが続いていることです。これはもっと尊重されるべきことだ。」と述べていた。したがって、ベトナムの諸団体に物理的に常に存在しているわけではないにもかかわらず、ジャパ・ベトナムが遠隔地から年に一度来て、訪ねることは、ベトナムの諸団体に大きな価値をもたらしていると言える。

結び：ジャパ・ベトナムの精神が広まるのを信じる。今回の訪問では、ベトナムの協力者の思いを聞く機会もあった。彼らは、ジャパの訪問が彼らの心を動かし、心の底からベトナム人同士のために何か具体的なことを与えたいと思う。宗教、職業、出身に関係なく、彼らはベトナム同士の苦しみを和らげるために喜んで手を差し伸べたいと言った。

それ故に、ジャパ・ベトナムの皆様各位の訪問と支援金は、受領者や協力者にとって物的は勿論、教育的でも必ず実を結ぶものと信じている。



会計報告

小野浩美

2023年支援金内訳

| | | |
|---------------------|-----------------|------------------|
| バクニン：250,000円 | ロンディエン：250,000円 | バン・グループ：250,000円 |
| タドウ：250,000円 | カマウ：250,000円 | コーチャン：250,000円 |
| 新スンピン・グループ：250,000円 | ブンタウ 40,750KVND | タイニン 40,750KVND |

2023年5月9日～2023年11月6日 寄付者のお名前（敬称略、順不同）

森絵里沙 佐藤みどり 守口恵子 渡辺典子 林裕美子 グエン・ティ・マイ グエン・ティ・ゴック
 青沼西子 武市英雄 柏村忠志 小池美恵子 関口順 阿部節子 鈴木武彦 竹永賢 井阪和夫
 野田祥子 佐竹道子 樋口禮治 石川直美 松尾民博 木野友義 藤井訓子 桜井優子 関本浩平
 松田稔 Ha Thi Liet Oanh カトリックイエズス会 イエズス会司牧センター

いつも暖かいご支援をありがとうございます。

2023年5月9日～2023年11月6日のご報告をいたします。

| | 日本(円) | ベトナム(KVND) | | 日本(円) | ベトナム(KVND) |
|------|-----------|------------|-------|------------|------------|
| 収入 | | | 前期繰越金 | 1,369,613 | 108,815 |
| 一般寄付 | 652,435 | 0 | 当期収支 | -1,039,981 | -81,500 |
| 助成金 | 200,000 | 0 | 次期繰越金 | 329,632 | 27,315 |
| 支出 | | | | | |
| 支援金 | 1,750,000 | 0 | | | |
| 活動費 | 142,416 | 0 | | | |

*助成金は高野道郎プロジェクトによるものです。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

(ご支援先) 郵便振替 00100-8-118761 JAPA VIETNAM

銀行振込 三菱UFJ銀行 店番号315 普通預金 3544236

JAPA VIETNAM 代表 安藤勇

イエズス会社会司牧センター 〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5-1 岐部ホール4階

TEL.03-5215-1844 / FAX.03-5215-1845